

平成29年度11月実施
第8回
農業簿記検定[®]
2級問題

注意事項

トイレなど途中退出後の再入室は認めません。試験開始の合図の前までに済ませてください

- 1 試験監督員の指示があるまで、この問題冊子は開かないようにしてください。
- 2 試験中、下記の使用が認められたもの以外は、すべてカバン等にしまい、机の中又は、足元等指定された場所に置いてください。試験中、使用が認められるものは、次のとおりです。
 - ・筆記具（BまたはHBの黒鉛筆/シャープペンシル）・消しゴム・定規・ラインマーカー
 - ・電卓（基準に適合したものに限る。又は算盤）・時計（通信機能を有するものを除く）
- 3 スマートフォン等通信機器を使用することは認めません（時計の代わり又は電卓として使用も不可）。電源を切り、カバン等にしまってください。
- 4 試験監督員の指示に従わない場合、また、周囲に迷惑をかける等、適切な試験の実施に支障を来たす行為を行った場合には、不正受験とみなすことがあります。
- 5 上掲4の場合を含み、不正受験と認められた場合には、直ちに退室を命ずることがあります。
- 6 試験時間は、**2時間（120分）**です。試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 7 この問題冊子には、**問題25問まで掲載**しており、**1頁から25頁まで印刷**しています。試験監督員の指示に従い、頁を調べ、印刷不鮮明や落丁等があれば、挙手をして申し出てください。
- 8 解答は、別途配布した解答用紙（マークシート）に記入（該当番号の塗りつぶし）してください。
- 9 問題の内容に関する質問には、一切応じません。
- 10 退室可能時間は、試験開始後30分後から試験終了10分前です。
 - ※退出を希望する場合は、必ず挙手をして、試験監督員が解答用紙を確認し回収するまでは、席を立たないでください。一旦退出後の再入室は、認めません。
- 11 試験終了の合図とともに、直ちに、筆記具を置き、解答用紙を裏返してください。
- 12 試験監督員が解答用紙を回収し、受験番号や氏名等の記載内容を確認した後、退室可能を指示するまでは、席を立たないでください。
- 13 この問題冊子及び計算用紙は、持ち帰ることができます。解答用紙は、持ち帰れません。

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会
監修 一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会

※“農業簿記検定[®]”は、一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会の登録商標です

問題 1 以下の文章のうち、誤っている文章が一つある。その文章の選択肢を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 材料費は、原価の発生が一定単位の農産物の生成に関して、直接的に認識されるか否かにより、直接材料費と間接材料費に分類される。畜産農業の場合、家畜1頭ごとを単位として原価計算を行うため、直接材料費は素畜費に限定される。
2. 材料の購入原価は、購入代価に引取運賃、運送保険料、購入手数料などの付随費用を含めて計算する。
3. 材料消費量の計算にあたり材料の払出記録や使用記録に基づいて実際の消費量を計算する方法を棚卸計算法という。
4. 作業員の就業時間のうち、一時的な天候不順による農作業の中止など作業員の責任以外の原因によって作業が行えなかった場合の時間のことを手待時間という。
5. 経費は原価の発生が一定単位の農産物の生成に関して直接的に認識されるか否かによって直接経費と間接経費に分類されるが、畜産農業における預託費は直接経費に分類されることになる。

問題 2 以下の文章のうち、誤っている文章が一つある。その文章の選択肢を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 原価を生産規模の増減に応じて比例的に増減する変動費と常に一定額発生する固定費に分類し、変動益（売上高）から変動費を控除したものを限界利益（貢献利益）という。
2. 損益分岐点変動益（売上高）とは、営業利益がゼロとなる変動益（売上高）のことであり、限界利益（貢献利益）が変動費と一致する場合の変動益（売上高）である。
3. 予算変動益（売上高）が損益分岐点変動益（売上高）からどの程度離れているのかを示す指標を安全余裕率という。
4. 直接原価計算方式による損益計算書は、短期利益計画に役立つ原価と生産規模と利益の関係を明らかにすることができるが、公開財務諸表としては認められていない。
5. 希望営業利益達成変動益（売上高）は、限界利益（貢献利益）が固定費と希望営業利益の合計額に一致する場合の変動益（売上高）である。

問題 3 以下の【資料】に基づいて、当月の材料消費額について正しい選択肢を一つ選びなさい。

【資料】

1. 材料の消費量は継続記録法、実際消費単価の計算は先入先出法によっている。
2. 当月の材料の入出庫に関する資料は以下の通りである。
 - 4月5日 肥料 20 kg（購入原価総額 2,200 円）を購入した。
 - 4月10日 肥料 30 kg（購入原価総額 3,600 円）を購入した。
 - 4月16日 肥料 35 kgを消費した。
 - 4月21日 肥料 35 kg（購入原価総額 3,675 円）を購入した。
 - 4月28日 肥料 40 kgを消費した。

【選択肢】

1. 7,875 円
2. 8,050 円
3. 8,250 円
4. 8,425 円
5. 9,000 円

問題 5 以下の【仕訳】の資料から、当月仕掛品勘定に集計される金額と製造間接費勘定に集計される金額として正しいものの組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

【仕訳】（単位：円）

5/10 本日よりエンジンの生産に関する作業委託を開始した。作業委託費として 50,000 円の支払いを行った。（5/31 現在未払等は存在しない。）

（借）（ ? ） 50,000 （貸）現 金 50,000

5/31 年間減価償却費 1,680,000 円のうち当月計上額を計上した。

（借）（ ? ） （ ? ） （貸）減価償却費 （ ? ）

5/31 動力光熱費の当月計上額を計上した。なお、当月支払額は 120,000 円であった。当月測定額は当月支払額よりも 12,800 円少なかった。

（借）（ ? ） （ ? ） （貸）動力光熱費 （ ? ）

5/31 地代賃借料を年間 480,000 円支払っている。当月計上額を計上した。

（借）（ ? ） （ ? ） （貸）地代賃借料 （ ? ）

【選択肢】

	仕掛品勘定	製造間接費勘定
1	157,200 円	287,200 円
2	50,000 円	287,200 円
3	50,000 円	300,000 円
4	157,200 円	300,000 円
5	50,000 円	2,267,200 円

問題 6 大原農園では、実際個別原価計算を行っている。以下の指示書別原価計算表と仕掛品勘定および製品勘定を作成し、空欄（①）～（⑤）に入る金額として正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。

1. 各生産指示書に関するデータ

	直接材料費	直接労務費	製造間接費	直接作業時間	備考
ナガネギ	668,000 円	? 円	? 円	140 時間	前期着手、当期収穫・引渡
カボチャ	412,000 円	? 円	? 円	115 時間	当期着手・収穫、当期末未引渡
ハウレンソウ	329,000 円	? 円	? 円	90 時間	当期着手、当期末未収穫

- 直接労務費については予定賃率を用いており、予定賃率は 1,100 円/時間であった。
- 製造間接費は、直接作業時間当たり 2,700 円で各指示書に予定配賦を行っている。
- 期首仕掛品のナガネギは 440,000 円であった。
- 期首製品のバレイショは 870,000 円であり、当期に引渡し済みである。

6. 指示書別原価計算表（単位：円）

	ナガネギ	カボチャ	ハウレンソウ	合計
期首仕掛品原価	()	—	—	()
直接材料費	()	()	()	()
直接労務費	()	(①)	()	()
製造間接費	(②)	()	()	()
合計	()	()	()	()
備考	()	()	()	

〔勘定〕（単位：円）

仕掛品			
前期繰越	()	製 品	()
種 苗 費	()	次期繰越	(③)
賃金手当	()		
製造間接費	()		
	()		()
製 品			
前期繰越	()	売上原価	(④)
仕 掛 品	()	次期繰越	(⑤)
	()		()

【選択肢】

	①	②	③	④	⑤
1	126,500	378,000	671,000	2,510,000	849,000
2	126,500	310,500	440,000	2,489,000	870,000
3	379,500	931,500	440,000	3,160,000	870,000
4	154,000	310,500	440,000	2,510,000	870,000
5	126,500	378,000	671,000	2,489,000	849,000

問題 7 以下の【資料】に基づき、期末仕掛品原価および完成品総合原価の組み合わせとして、正しい選択肢を一つ選びなさい。

【資料】

1. 生産データ

期首仕掛品	180 頭
当期投入	400 頭
合計	580 頭
期末仕掛品	200 頭
完成品	380 頭

2. 原価データ

期首仕掛品原価		当期製造費用	
素畜費	2,160,000 円	素畜費	4,080,000 円
加工費	1,782,000 円	加工費	8,424,000 円

3. その他の資料

完成品の家畜の飼育日数は1頭当たり180日である。期首仕掛品となった家畜は前期において90日の飼育が終了していた。また、期末仕掛品となった家畜も90日の飼育日数が経過していた。期末仕掛品の家畜の素畜費は2,040,000円であった。期末仕掛品原価の評価方法は先入先出法である。

【選択肢】

	期末仕掛品原価	完成品総合原価
1	4,200,000 円	10,194,000 円
2	4,200,000 円	12,246,000 円
3	4,200,000 円	14,406,000 円
4	6,252,000 円	10,194,000 円
5	6,252,000 円	12,246,000 円

問題 8 以下の【資料】に基づいて、空欄（①）～（③）に入る金額として適切な選択肢を一つ選びなさい。

【資料】

種苗費			
買掛金	(?)	仕掛品	(①)
	(?)		(?)

賃金手当			
預り金	145,000	未払費用	95,800
現金	674,000	仕掛品	(?)
未払費用	(?)	製造間接費	(?)
	943,000		(?)

製造間接費			
賃金手当	389,200	仕掛品	(?)
減価償却費	420,000	製造間接費差異	(②)
動力光熱費	160,500		
	(?)		(?)

【製造原価報告書】（単位：円）

I 直接材料費		2,850,000
II 直接労務費		(?)
III 製造間接費		
実際発生額	(?)	
製造間接費差異	(?)	950,000
当期総製造費用		(?)
期首仕掛品棚卸高		482,550
合計		(?)
期末仕掛品棚卸高		628,700
当期製品製造原価		(③)

【選択肢】

	①	②	③
1	2,850,000	19,700	4,111,850
2	2,850,000	0	4,404,150
3	2,850,000	19,700	4,404,150
4	3,308,000	0	4,111,850
5	3,308,000	19,700	4,404,150

問題 9 以下の〔資料〕に基づき、空欄（①）～（③）に入る正しい金額を示す選択肢を一つ選びなさい。

〔資料〕

1. 生産・販売データ

期首仕掛品	100頭	期首製品	0頭
当期投入	800頭	当期完成品	700頭
合計	900頭	合計	700頭
期末仕掛品	200頭	期末製品	0頭
当期完成品	700頭	当期販売品	700頭

2. 原価データ

期首仕掛品原価	
素畜費	90,000円
変動加工費	380,000円
固定加工費	208,000円
当期製造費用	
素畜費	640,000円
変動加工費	8,692,000円
固定加工費	4,100,000円

3. その他の計算条件

- (1) 当期完成品の家畜の飼育日数は1頭当たり100日である。期首仕掛品となった家畜は前期において40日の飼育が終了していた。また、期末仕掛品となった家畜は80日の飼育日数が経過していた。期末仕掛品の家畜の素畜費は160,000円であった。期末仕掛品原価の評価方法は先入先出法である。
- (2) 当社は直接原価計算方式の損益計算書を作成している。そのため、当期製造費用の固定加工費については、全額期間原価として処理する。
- (3) 当期に販売した家畜は1頭当たり20,000円で販売された。
- (4) 資料から判明する以外の条件は考慮しない。

直接原価計算方式による損益計算書

I 売上高		(?)
II 変動売上原価		
1. 期首製品棚卸高	0	
2. 当期製品製造原価	(①)	
合計	(?)	
3. 期末製品棚卸高	0	(?)
限界利益		(?)
III. 固定費		
固定加工費	(②)	(?)
営業利益		(③)

【選択肢】

	①	②	③
1	7,946,000	4,100,000	2,546,000
2	7,946,000	4,100,000	1,954,000
3	7,946,000	3,508,000	2,546,000
4	13,430,000	4,100,000	1,954,000
5	13,430,000	3,508,000	1,954,000

問題 10 次の入金伝票、出金伝票、振替伝票より各勘定口座へ転記した場合の①～③に当てはまる金額の合計額として正しい番号を一つ選びなさい。

入金伝票 No.101	
×年4月1日	
野菜売上高	45,000

出金伝票 No.201	
×年4月1日	
買掛金	20,000

入金伝票 No.102	
×年4月1日	
売掛金	30,000

出金伝票 No.202	
×年4月1日	
肥料費	32,000

振替伝票 No.301			
×年4月1日			
売掛金	50,000	野菜売上高	50,000

振替伝票 No.302			
×年4月1日			
肥料費	30,000	買掛金	30,000

仕訳日計表
×年4月1日

借 方	勘定科目	貸 方
?	現 金	(①)
?	売 掛 金	30,000
20,000	買 掛 金	?
—	野 菜 売 上 高	(②)
?	肥 料 費	—
(③)	合 計	(③)

【選択肢】

	①	②	③
1	75,000	95,000	105,000
2	75,000	95,000	184,000
3	52,000	95,000	207,000
4	52,000	5,000	207,000
5	52,000	5,000	105,000

問題 11 次の乳用牛 A の育成に関する取引の仕訳について、(①) ~ (③) にあてはまる勘定科目として正しいものの組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

〔仕訳〕

1. 当期より乳用牛 A の育成を開始した。当期における乳用牛 A の育成に要した飼料費は 216,000 円であった。なお、飼料の代金は未払いとなっている。

(①) 216,000 (買掛金) 216,000

2. 決算につき、乳用牛 A の育成費用について計算を行ったところ、総額 378,000 円であった。

(②) 378,000 (③) 378,000

3. 2.の翌期において乳牛 A が、初産の分娩をし搾乳を開始した。

(生物) 500,000 (②) 378,000

(③) 122,000

【選択肢】

	①	②	③
1	飼料費	育成仮勘定	育成費振替高
2	育成仮勘定	育成費振替高	育成費振替高
3	飼料費	育成費振替高	育成仮勘定
4	育成仮勘定	育成費振替高	育成仮勘定
5	飼料費	育成仮勘定	買掛金

問題 12 次の取引につき仕訳をした場合における下記の記述のうち、誤っている記述の組み合わせを一つ選びなさい。

×5年3月31日にそれまで使用していたコンバイン（取得原価：2,000,000円、償却率：0.200、償却方法：定額法、記帳方法：間接法、取得日：×1年10月1日）を、500,000円で下取りしてもらい頭金に充当し、新しいコンバイン（購入価額：2,500,000円）を購入し、購入価額と下取価額との差額は月末に支払うこととした。（決算：年1回、決算日：9月30日）

- ア. 借方で増加する機械装置の金額は2,000,000円である。
- イ. 借方に計上される減価償却費の金額は、200,000円である。
- ウ. 借方で固定資産売却損が100,000円計上される。
- エ. 貸方で計上される未払金は2,000,000円である。
- オ. 貸方で固定資産売却益が100,000円計上される。

【選択肢】

1. アとウ 2. アとオ 3. イとウ 4. イとオ 5. エとオ

問題 13 次の所有権移転ファイナンス・リース取引に関する〔資料〕に基づいて、X3年3月31日における貸借対照表に計上されるべきリース債務の金額として正しいものの番号を選びなさい。
なお、計算上生じる端数は円未満四捨五入する。（決算年1回、決算日3月31日）

〔資料〕

- (1) 所有権移転条項：あり
- (2) 解約不能のリース期間：5年
- (3) リース取引開始日：X1年4月1日
- (4) リース料：月額：20,000円（各年3月31日に1年分240,000円を現金で支払う）
総額：1,200,000円
- (5) 貸手の購入価額：1,020,000円（借手においても明らかである）
- (6) 貸手の計算利率：年5.675%（借手においても明らかである）
- (7) リース物件（器具備品）の経済的耐用年数：5年
- (8) 借手の減価償却方法：定額法（償却率：0.200、残存価額0）

【選択肢】

1. 645,435 2. 837,885 3. 846,445 4. 1,020,000 5. 1,200,000

問題 14 次の【勘定科目】および【勘定科目の説明】の組み合わせをすべて正しく示しているものの番号を一つ選びなさい。

【勘定科目】

- A 価格補填収入
- B 経営安定補填収入
- C 作付助成収入
- D 国庫補助金収入

【勘定科目の説明】

- ① 作付面積を基準に交付される交付金
- ② 過年度の農畜産物の価格下落などに対する補填金
- ③ 農作業等の作業受託による収入
- ④ 農畜産物の価格差交付金、価格安定基金の補填金
- ⑤ 固定資産の取得のため交付された補助金
- ⑥ 圧縮記帳による損金算入額を積み立てた額

【選択肢】

- 1. A② B④ C③ D⑥
- 2. A④ B② C① D⑥
- 3. A② B① C③ D⑥
- 4. A④ B② C① D⑤
- 5. A④ B⑥ C① D⑤

問題 15 下記の〔仕訳〕のうち、誤っている記述の番号を一つ選びなさい。

〔仕訳〕

① 減価償却費 30,000 円を間接法により計上した。

(借) 減 価 償 却 費 30,000 (貸) 減 価 償 却 累 計 額 30,000

② 機械装置の圧縮損 2,000,000 円を直接減額方式により計上した。

(借) 固 定 資 産 圧 縮 損 2,000,000 (貸) 機 械 装 置 2,000,000

③ 貸倒引当金を差額補充法により 21,900 円計上した。

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入 21,900 (貸) 貸 倒 引 当 金 21,900

④ 農業経営基盤強化準備金 2,200,000 円を剰余金処分経理方式により取り崩した。

(借) 農 業 経 営 基 盤 強 化 準 備 金 2,200,000 (貸) 農 業 経 営 基 盤 強 化 準 備 金 戻 入 2,200,000

⑤ 当期に納付すべき消費税等の金額は 1,200,000 円であった。なお、当社は消費税等の記帳方法は、
税込方式を採用している。

(借) 租 税 公 課 1,200,000 (貸) 未 払 消 費 税 等 1,200,000

【選択肢】

1. ①
2. ②
3. ③
4. ④
5. ⑤

問題 16

農事組合法人F Kファームは、農業協同組合法第 72 条の 25 に基づき、剰余金処分案を作成した。下記の〔記述〕に基づき、〔資料〕の①にあてはまる金額として、正しいものの番号を一つ選びなさい。

〔記述〕

- イ 当期の剰余金の 10 分の 1 に相当する金額を利益準備金として積み立てることとした。
ロ ×3 年 3 月 3 1 日において、従事分量配当として 11,102,800 円の仮払いを行ったが、これ以上に配当を行う予定はない。

〔資料〕

農事組合法人F Kファーム

剰 余 金 処 分 案

自 平成 ×2 年 4 月 1 日
至 平成 ×3 年 3 月 3 1 日 (単位：円)

I 当期末処分剰余金			
当期剰余金		13,203,300	
前期繰越剰余金		<u>1,490,200</u>	()
II 剰余金処分量			
利益準備金			(?)
任意積立金			
農業経営基盤強化準備金	<u>500,300</u>	500,300	
配当金			
従事分量配当金	<u>()</u>	<u>()</u>	<u>()</u>
III 次期繰越剰余金			<u><u>(①)</u></u>

【選択肢】

1. 110,000 円
2. 1,621,050 円
3. 1,770,070 円
4. 3,468,770 円
5. 11,433,230 円

問題 17 下記の【記述】のうち、誤っているものの番号を一つ選びなさい。

【記述】

- ① 有形固定資産の建設を依頼し、手付金などを支払った場合には、建設仮勘定（資産）の借方に記帳しておき、引渡しを受けた時点で、有形固定資産の勘定に振り替える。
- ② 搾乳牛や繁殖豚などの生物を売却した場合には、当期首から売却時点までの減価償却費を計算し、そのうえでその生物の帳簿価額と売却価額との差額を、生物売却収入勘定（収益）の貸方に、または生物売却原価勘定（費用）の借方に記帳する。
- ③ 労働協約や就業規則において退職給付規定が定められている場合、従業員の退職に際し就業期間の報酬として支払われるのが退職金である。この退職金は、支給された期間だけの費用ではなく、就業期間全体の費用と考えられるため、当期に負担すべき金額を見積り、その見積額を退職給付費用勘定（費用）の借方に記帳するとともに、退職給付引当金勘定（負債）の貸方に記帳する。
- ④ 株式の発行時には原則として、払込みまたは給付された財産の額をもって資本金勘定（純資産）の貸方に記帳する。
- ⑤ 繰延資産とは、当期において支出を行い、これに対するサービスなどを受けたが、その支出の効果が当期だけでなく次期以降にわたる場合に、その支出額を次期以降の費用として繰り延べるために計上される資産をいう。

【選択肢】

1. ①
2. ②
3. ③
4. ④
5. ⑤

問題 18~25

米と野菜を生産するY株式会社のX8年4月1日からX9年3月31日事業年度に関する、次の

〔資料1〕および〔資料2〕に基づいて、以下の設問に答えなさい。

なお、原価計算制度は採用していない。

〔資料1〕 決算整理前残高試算表

60,000	現金	
7,651,314	普通預金	
3,976,032	売掛金	
285,775	原材料	
3,215,767	仕掛品	
953,655	仮払消費税等	
21,355,436	機械装置	
693,858	器具備品	
5,000,000	土地	
	買掛金	5,114,706
	貸倒引当金	60,000
	仮受消費税等	2,158,655
	農業経営基盤強化準備金	10,000,000
	資本金	5,000,000
	繰越利益剰余金	12,700,579
	水稻売上高	2,735,989
	野菜売上高	25,790,670
	価格補填収入	957,600
3,537,000	種苗費	
2,796,498	肥料費	
1,853,508	農薬費	
7,500,366	賃金手当	
1,283,500	動力光熱費	
756,000	修繕費	
4,800,000	役員報酬	
	受取利息	510
	一般助成収入	1,200,000
65,718,709		65,718,709

〔資料2〕決算整理事項

(1) 原材料の期末棚卸の状況は、以下の通りである。棚卸資産の決算整理は、総額法による。

品目	数量	単価
肥料X	20袋	5,400円/袋
農薬Y	50kg	2,160円/Kg

なお、期末における未収穫の野菜の評価額は、3,535,845円であった。

(2) 将来の農地取得に備えるため、当期に交付を受けた農業経営基盤強化準備金の対象となる交付金について、農業経営基盤強化準備金1,000,000円を計上する。

(3) 当期において新たに農地1,500,000円を取得したため（土地勘定に計上済み）、農業経営基盤強化準備金1,200,000円を取り崩す。当該新規取得農地については、圧縮記帳を行い、直接減額方式により同額の圧縮損を計上する。

(4) 当期に計上すべき減価償却費は、以下の通りである（すべて製造に関する費用である）。

固定資産	当期償却額
機械装置	6,100,000円
器具備品	123,000円

(5) 決算において、期末における貸倒見積額75,000円を貸倒引当金として、差額補充法により計上する。

(6) 肥料220,000円および農薬150,000円を購入し、代金を掛としたが、まだ会計処理を行っていなかった。

(7) 決算において、消費税等の納付税額が1,205,000円と確定した。

(8) 決算において、法人税等の年税額が250,000円と確定した。

製造原価報告書

(単位:円)

I	材 料 費	期首材料棚卸高 ()	
	種 苗 費 ()		
	肥 料 費 ()		
	農 薬 費 ()		
	計	()	
	期末材料棚卸高	()	(ア)
II	労 務 費		
	賃 金 手 当		()
III	経 費		
	動 力 光 熱 費 ()		
	修 繕 費 ()		
	()	()	(イ)
	当期総製造費用		()
	期首仕掛品棚卸高		()
	計	()	
	期末仕掛品棚卸高		()
	当期製品製造原価	()	(ウ)

問題 18

上掲の製造原価報告書の空欄 (ア) ~ (ウ) を計算し、下記の記述のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | |
|------------------|---------------|----------------|
| 1. (ア) 8,256,781 | (イ) 8,262,500 | (ウ) 24,069,569 |
| 2. (ア) 8,626,781 | (イ) 2,039,500 | (ウ) 24,389,647 |
| 3. (ア) 8,256,781 | (イ) 2,039,500 | (ウ) 24,389,647 |
| 4. (ア) 8,626,781 | (イ) 8,262,500 | (ウ) 24,069,569 |
| 5. (ア) 8,256,781 | (イ) 2,039,500 | (ウ) 24,069,569 |

損益計算書

Y株式会社

自 X8 年 4 月 1 日 至 X9 年 3 月 31 日

(単位：円)

I	売 上 高		
	1. 水 稻 売 上 高	2,735,989	
	2. 野 菜 売 上 高	25,790,670	
	3. 価 格 補 填 収 入	957,600	()
II	売 上 原 価		
	1. 当 期 製 品 製 造 原 価		()
	売 上 総 利 益		()
III	販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		
	1. 役 員 報 酬	()	
	2. 貸 倒 引 当 金 繰 入 額	(工)	()
			()
	営 業 利 益		()
IV	営 業 外 収 益		
	1. 受 取 利 息	()	
	2. 一 般 助 成 収 入	()	()
			()
	経 常 利 益		()
V	特 別 利 益		
	1. (才)		(力)
VI	特 別 損 失		
	1. (キ)	(ク)	
	2. (ケ)	(コ)	()
			()
	税 引 前 当 期 純 利 益		()
	法 人 税 等		()
	当 期 純 利 益		()

問題 19 上掲の損益計算書の空欄（エ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 15,000
2. 50,000
3. 60,000
4. 75,000
5. 135,000

問題 20 上掲の損益計算書の空欄（カ）と（ク）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. (オ) 農業経営基盤強化準備金取崩額 (カ) 1,200,000 (キ) 農業経営基盤強化準備金繰入額
(ク) 1,000,000
2. (オ) 農業経営基盤強化準備金繰入額 (カ) 1,000,000 (キ) 農業経営基盤強化準備金取崩額
(ク) 1,200,000
3. (オ) 農業経営基盤強化準備金取崩額 (カ) 1,000,000 (キ) 農業経営基盤強化準備金繰入額
(ク) 1,200,000
4. (オ) 農業経営基盤強化準備金 (カ) 1,200,000 (キ) 農業経営基盤強化準備金取崩額
(ク) 1,000,000
5. (オ) 農業経営基盤強化準備金取崩額 (カ) 1,200,000 (キ) 農業経営基盤強化準備金
(ク) 1,000,000

問題 21 上掲の損益計算書の空欄（コ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. (ケ) 固定資産圧縮損 (コ) 1,200,000
2. (ケ) 固定資産除却損 (コ) 1,200,000
3. (ケ) 固定資産除却損 (コ) 1,000,000
4. (ケ) 固定資産売却損 (コ) 1,200,000
5. (ケ) 固定資産圧縮損 (コ) 1,000,000

問題 22 次掲の貸借対照表の空欄（ サ ）～（ ス ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | | |
|----|----------------|-------------|---------------|
| 1. | （サ） 21,355,436 | （シ） 693,858 | （ス） 3,800,000 |
| 2. | （サ） 15,255,436 | （シ） 570,858 | （ス） 5,000,000 |
| 3. | （サ） 15,255,436 | （シ） 570,858 | （ス） 3,800,000 |
| 4. | （サ） 15,255,436 | （シ） 693,858 | （ス） 5,000,000 |
| 5. | （サ） 21,355,436 | （シ） 570,858 | （ス） 5,000,000 |

問題 23 次掲の貸借対照表の空欄（ セ ）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. （セ） 4,744,706
2. （セ） 5,114,706
3. （セ） 5,264,706
4. （セ） 5,334,706
5. （セ） 5,484,706

問題 24 次掲の貸借対照表の空欄（ ソ ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | |
|----|-------------|------------|
| 1. | （ソ） 250,000 | （タ） 仮受消費税等 |
| 2. | （ソ） 250,000 | （タ） 仮払消費税等 |
| 3. | （ソ） 953,655 | （タ） 未払消費税等 |
| 4. | （ソ） 953,655 | （タ） 仮受消費税等 |
| 5. | （ソ） 250,000 | （タ） 未払消費税等 |

問題 25 次掲の貸借対照表の空欄（ チ ）を計算し、下記の記述のうちから、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | | | | |
|----|------------|----|------------|----|------------|
| 1. | 9,800,000 | 2. | 10,000,000 | 3. | 10,200,000 |
| 4. | 11,000,000 | 5. | 11,200,000 | | |

貸借対照表

X9年3月31日

(単位：円)

資産の部		負債の部	
I 流動資産		I 流動負債	
現金預金	()	買掛金	(七)
売掛金	()	貸倒引当金	()
原材料	()	未払法人税等	(ソ)
仕掛品	()	(タ)	1,205,000
流動資産合計	()	流動負債合計	()
II 固定資産		II 固定負債	
1. 有形固定資産		農業経営基盤強化準備金	(千)
機械装置	(サ)	固定負債合計	()
器具備品	(シ)	負債合計	()
土地	(ス)	純資産の部	
有形固定資産合計	()	I 株主資本	
固定資産合計	()	資本金	5,000,000
		利益剰余金	
		その他利益剰余金	
		繰越利益剰余金	()
		利益剰余金合計	()
		純資産合計	()
資産合計	()	負債・純資産合計	()